

2024年1月28日
宮崎中部教会主日礼拝
牧師 乾元美

エゼキエル書 36 : 22~24

ヨハネによる福音書 17 : 3

「み名をあげさせたまえ」

(ハイデルベルク信仰問答 祈りについて 問 122)

※問答は「日々の祈り」をご覧ください。

【招詞】 コリントの信徒への手紙二 5章 17節

【讚美歌】 27 「父、子、聖霊の」

【詩編交読】 詩編 143編

【赦しの宣言】 イザヤ書 55 : 7 「主に立ち帰るならば、主は憐れんでくださる。

わたしたちの神に立ち帰るならば／豊かに赦してくださる。」

【讚美歌】 16 「われらの主こそは」

【祈祷】

天の父なる神さま

今朝も、わたしたちに新しい命、新しい朝、新しい主の日を備えてくださり、一人一人の名前を呼んで、この礼拝に招いてくださったことを、心から感謝いたします。

これから共に、聖書の御言葉を聞きます。聖霊なる神さまが、語る者、聞く者に豊かに働いてくださり、わたしたちの目を、耳を、心を開いてください。そして、御言葉を通して、あなたの恵みの御心を、深く悟ることが出来るよう導いて下さい。この礼拝の中心に、生きておられる復活のイエスさまがいて下さり、豊かな交わりに与かって、わたしたちの信仰がますます力強く励まされますように。そして、聖霊によって新しくされ、また新しく歩み出す一週間を、神さまの御心に従って歩む者とならせて下さい。

このお祈りを、主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン

【聖書】 エゼキエル書 36 : 22~24

ヨハネによる福音書 17 : 3

【説教】 「み名をあげさせたまえ」

<あげさせたまえ>

主の日の礼拝では、『ハイデルベルク信仰問答』をもとに、イエスさまがわたしたちに教えてくださった「主の祈り」の一つ一つの意味を、み言葉から聞いています。

「主の祈り」の中には、6つの願いがありますが、今日はその第一の願い、「み名をあげさせたまえ」のところでは、この祈りが、どのようなことを求めている祈りなのか。どのような心で祈るべき祈りなのか。今日はそのことを、み言葉から示されたいと思います。

さて、今わたしたちが礼拝の中で祈っている「主の祈り」の言葉は、文語訳といって、少し古い日本語が使われています。「み名をあげさせたまえ」。

「あがめさせたまえ」なんていう仰々しい言い方は、普段中々しないと思いますが、「あがめる」というのは、きわめて尊いものとして敬う、という意味です。

そして、あがめる対象は、「み名」です。聖書では、「み名」、つまり名前というのは、単なる記号ではなくて、その名前を持つ人そのもの、実体を現わします。ですから、ここで「み名」というのは、「天の父なる神さまご自身」のことを言い表しています。

つまり、「み名をあがめさせたまえ」を、今の言葉にすれば、「神さまのお名前、つまり神さまが、あがめられますように」となるでしょうか。つまり、神さまを、わたしたちが心からあがめるようになりますように、ということです。

そして確かに、『ハイデルベルク信仰問答』も、「み名をあがめさせたまえ」の意味をそのように取って、解説をしているようです。

今日の間 122 は、「み名をあがめさせたまえ」で、どういうことを願っているか、ということ、二つに分けて答えていました。答えにはこうあります。

「第一に、わたしたちが、あなたを正しく知り、あなたの全能、知恵、善、正義、慈愛、真理を照らし出す、そのすべての御業において、あなたを聖なるお方とし、あがめ、賛美できるようにさせてください、ということ。

第二に、わたしたちが自分の生活のすべて、すなわち、その思いと言葉と行いを正して、あなたの御名がわたしたちのゆえに汚されることなく、かえってあがめられ讚美されるようにしてください、ということです。」

どちらも「わたしたちが、神さまのお名前、神さまご自身を、あがめ、賛美するように」、という願いですが、一つ目の答えは、神さまの御業に重点が置かれています。神さまご自身と、そしてそのすべての恵みの御業を、わたしたちが正しく知る。そのことによって、わたしたちが、神さまを聖なるお方として、あがめ、賛美するように、と言っています。

そして二つ目の答えでは、今度はわたしたちの業に重点を置いています。つまり、神さまを正しく知ったわたしたちが行う、生活のすべてにおける、すべての業が、神さまのみ名を汚すことのないように。かえって、神さまのものとされたわたしたちの業を通して、神さまが人々にあがめられ、賛美されるようになりますように。そう願っているのです。

ここで、一つ目の答えに、「わたしたちが、あなたを正しく知り」とありました。

今日読まれたヨハネ 17：3 にはこうあります。「永遠の命とは、唯一のまことの神であられるあなたと、あなたのお遣わしになったイエス・キリストを知ることです。」

つまり、わたしたちが、神さまを知るということは、わたしたちが、永遠の命をいただく、ということです。そして、永遠の命をいただくとは、わたしたちが、永遠なる神さまといつまでも共に生きる命をいただく、ということです。これが、神さまを知る、ということです。

「神さまを正しく知る」とは、単に知識を得ることではありません。

わたしたちが、神さまこそ、まことのわたしの神であることを知り、造り主であることを知り、愛して下さっていることを知り、神さまと、わたしたちとの間に、人格的な親しい関係が築かれること。そうして、神さまと共に生きるようになることを言うのです。

わたしたちは、そのように、神さまのことを知らされたからこそ、永遠の命をいただいたからこそ、神さまとの愛の交わりに生きる者とされたからこそ。神さまを聖なる方として、心からあがめ、賛美することができるのです。

<聖とされますように>

さて、しかし実は、聖書に語られている「主の祈り」を直訳して、今の言葉にしたものは、「み名が聖とされますように」という言葉になっています。実は、こちらの方が、本来の聖書の御言葉に忠実な訳なのです。「み名が聖とされますように」。

そうであるならば、「主の祈り」の第一の祈りは、「わたしたちが、神さまのみ名をあがめるようになりますように」、ということではなくて。「神さまが、ご自身のみ名を、聖とされますように」と祈っているのです。

み名を聖とされるのは、わたしたちではなく、神さまです。

なぜなら、人間であるわたしたちが、神さまのことを、聖とすること、聖くすることなど、出来ないからです。

でも、なぜわたしたちは、神さまが、ご自分の名を聖とされることを、願わなければならないのでしょうか。

…それは、わたしたちが、罪によって、神さまのみ名を汚してしまったからです。

「み名が聖とされますように」。しかし本来、神さまは、初めから永遠に至るまで、ずっと聖なるお方です。「聖さ」は、神さまに属するものです。聖書の中で「聖とする」という時、それは、神さまのものとして、特別に他から取り分ける、という意味です。

ですから、「神さまのみ名が聖とされる」とは、神さまが、他の被造物と混同されることなく、まことに唯一の神とされること。神が神であられること、と言えるでしょう。

<み名を知らせる>

さて、そのように、天にあっても地にあっても、唯一聖いお方である神さまは、わたしたちと親しい交わりを持つために、ご自身のお名前を、人間であるわたしたちに、知らせてくださいました。わたしたちが、神さまの聖い名を呼ぶことを、許してくださいました。

旧約聖書では、神さまは「ヤハウエ」と呼ばれています。また、お名前を尋ねたモーセに対して、神さまは「わたしはある。わたしはあるという者だ」とご自身の名を示されました（出エジプト3：13～14）。

自分の名前を相手に知らせるということは、自分という固有の存在を相手に知らせることであり、真実な、親しい関係を築いていくために必要なことです。

匿名のままでは、互いに本当の相手のことを知ることは出来ません。それは、本質を隠したままの、表面的な、無責任な関係になってしまいます。

ですから神さまは、わたしたちとの関係を築くにあたって、ご自分の名を示し、ご自身の存在を、わたしたちに現わしてくださいました。そうして、ご自分が語られること、なされること、そして示して下さるご計画に、すべて責任をもち、わたしたちと向かい合って、真剣に、誠実に、関係を築いて下さろうとするのです。

しかし、先ほども申しましたように、名前とは、その人の実体を現わすものです。

ですから、名前を相手に知らせるということは、自分の一部を相手に委ねる、ということにもなります。つまり、相手は自分の名前を、好き勝手に使うことができるようになるのです。もしかすると、名前を知らせたなら、相手が自分の名前を悪用するかも知れません。でも、本当の関係を築きたいから、相手を信頼して、自分の名を知らせるのです。

しかし実際、神さまのお名前を知らせていただいた、旧約聖書の神の民は、神さまのみ名をみだりに唱えたり。自分勝手な誓いのために、神さまのお名前を乱用したり。罪を犯すことによって、神さまの聖いみ名を貶めること、汚すようなことをしてしまいました。

わたしたちもまた、そうです。イエスさまによって、神さまのことを知った。今や、罪を赦されて、あの「わたしはある」というお方を、「天の父なる神さま」と、親しくその名を呼ぶことが許される関係とされた。

それなのに、わたしたちは、その聖なるお名前を、自分の願望を叶えるために呼んだり。自分の正しさを主張するために悪用したり。口先だけで唱えたり。罪にまみれた口で、罪に汚れた手で、べたべた汚してしまうのです。

聖なるそのみ名を、罪人であるわたしたちに知らせることは、神さまにとって、大きなリスクを伴うことであり、また、大変な忍耐を必要とすることでした。

しかし、それでも神さまは、ご自分の名を、わたしたちに知らせることを、よしとして下さいました。わたしたちを信頼して、わたしたちがその名を知ることを許し、わたしたちがその名を呼ぶことを求めてくださったのです。

神さまは、聖いままに、わたしたちから遠く、高く離れたところにおられることよりも。罪に汚れ、地べたを這うようなわたしたちに、ご自分の名を教え、存在を示し、親しい、深い、まことの関係を築くことを選んでくださった。わたしたちがどれだけ罪深く、どれだけ汚れていても、いつも、わたしたちと近く、共にいることを、神さまが望んでくださり、そのようにしてくださったのです。

そのために、神さまは、ご自分の聖いみ名を、ご自身を、その御心を、喜んで、罪人であるわたしたちに現わして下さいました。

神さまは、ご自分のみ名の聖さにもまして、罪に汚れたわたしたちを愛することを、選んでくださったのです。

<み名を汚すわたしたち、聖とされる神さま>

それなのに、そのような神さまの愛の御心を蔑ろにして、神さまに背き、罪を犯し、神さまの聖なるみ名を汚してしまっているわたしたちです。

しかし、わたしたちは、自分たちが汚してしまった神さまのお名前を、わたしたちの汚れた手で、再び聖くするようなことは出来ません。

聖さは、わたしたちから出るものではないからです。神さまが聖くられるのは、神さまご自身の聖さによるからです。

ですから、神さまのみ名を聖くされるのは、神さまご自身しかおられないのです。

[旧約の神の民の場合]

今日の旧約聖書のエゼキエル書は、そのことがよく分かる箇所でした。エゼキエル書は、イスラエルの民が、神さまに背く罪によって国を失い、バビロン捕囚で異国の地に置かれている時に、預言者エゼキエルを通して、神さまが語られたみ言葉です。

イスラエルの民は、神さまに選ばれ、神の民と呼ばれていました。神さまのものとされ、神さまの聖なる民とされてきました。それなのに、彼らは偶像礼拝をするようになり、唯一のまことの神さまを、神として礼拝しなくなりました。そうして聖なるものとされた神の民が、自分たちの神さまの聖なるみ名を汚してしまったのです。

そして彼らは、神さまの怒りを受けて、国を失い、異国の地に連れられていきます。すると、そこで他の国々にも「あの神の民は、自分の土地を追われてきた」と、不信仰な民の姿によって、神さまが軽蔑され、その聖なるみ名が汚されてしまったのです。

そこで、神さまはこう言われます。23 節「わたしは、お前たちが国々で汚したため、彼らの間で汚されたわが大いなる名を聖なるものとする。わたしが彼らの目の前で、お前たちを通して聖なるものとされるとき、諸国民は、わたしが主であることを知るようになる、と主なる神は言われる。わたしはお前たちを国々の間から取り、すべての地から集め、お前たちの土地に導き入れる。」

神さまは、他の国々の前で、イスラエルの民を通して、ご自分の汚された名を聖なるものとする、と言われます。どのようにしてでしょうか。

それは、イスラエルの民を、異国の地において、取り、集め、また彼らの土地に導き入れることによって。つまり、彼らが神さまに対して犯した罪を赦し、ご自分の民として救い出すことによって。神さまは、その御力を現わし、汚されたご自分の名を聖なるものとする、と言われるのです。

[わたしたちの場合]

では、わたしたちの場合はどうなるのでしょうか。わたしたちもまた、イエスさまによって、神の民とされ、神の子とされ、その聖いみ名を呼ぶこと。しかも、「天におられるわたしたちの父よ」と、親しくそのみ名を呼ぶことを許された者です。

しかし、なおわたしたちは、その神さまの聖いみ名を、汚すような歩みをしているのではないのでしょうか。

御心に背き、お名前を自分の願望によってみだりに唱え、神の子らしからぬ、貧しい愛しか持たず、自己中心的に歩み、人を赦さず、疑い、迷い、躓いている。

このようなわたしたちが、神の子と呼ばれていること。神の民と呼ばれていること。それは、天の父なる神さまの、聖なるみ名を汚していることにはならないのでしょうか。

そして本当は、神さまが、ご自分の名を聖くされる、汚れを拭われる、ということは、その名を汚したわたしたちの罪が裁かれる、ということに他なりません。

神さまの聖さ、神さまの正しさが明らかにされるといことは。わたしたちの汚れ、わたしたちの罪がはっきり示され、それを清算しなければならない、ということなのです。

しかし、神さまは、わたしたちが、自分の罪を、神さまのみ名を汚した罪を、自分で清算し、償うことができないことを、十分承知しておられます。

そして、これだけ、神さまのみ名を汚したわたしたちなのに、それでもなお、わたしたちを愛し、わたしたちと共に生きることを望んでくださいます。

だからこそ、父なる神さまは、まことの独り子であるイエスさまの十字架の血によって、わたしたちの罪を、わたしたちの汚れを、完全に拭ってくださったのです。わたしたちの罪を、御子イエスさまが、ご自分の命で、完全に清算してくださったのです。

神さまは、ご自分の名を汚してしまったわたしたちの罪を、神さまご自身が拭って下さることによって、ご自分のみ名を聖としてくださったのです。

ですから、「み名をあがめさせたまえ」、「み名が聖とされますように」との祈りは、ただ、「わたしたちが、あなたをあがめ、賛美しますように」という願いではありません。

これは、神さまが、そのみ名の聖さのゆえに、わたしたちを、罪から救ってくださることを求める祈りなのです。

「神さま、あなたが、聖なるみ名を汚してしまったわたしたちの罪を赦し。あなたが、わたしたちの汚れを拭い。あなたが、わたしたちを救い出し。あなたが、わたしたちを、あなたの聖なる民、あなたの子とし続けてくださることによって、あなたのみ名を、聖なるものとしてください」という祈りなのです。

<祈りの心>

ですから、わたしたちは、「み名をあがめさせたまえ」、「み名が聖とされますように」と祈る時、神さまが、ご自分の聖なるみ名を教えてください、その御心に立ち返らなければなりません。

神さまが、このように罪深いわたしたちを、神さまのみ名を汚してしまうようなわたしたちを。それでも、愛して下さり、憐れんで下さり、いつも共に生きることを願って、その聖なるみ名を呼ぶことを許してくださったこと。

そして、わたしたちが、なお罪によって、そのみ名を正しく呼ぶことができず、汚してしまっても。神さまご自身が、わたしたちを罪から救って下さることによって、そのみ名を聖としてくださること。

そのためにこそ、神の御子イエスさまが、わたしたちの罪をすべて担い、滅びを引き受け、十字架に架かって死に、わたしたちの罪を完全に償ってくださったということ。

この恵みにあって、わたしたちは「天におられるわたしたちの父よ」と神さまを呼び、「そのみ名が聖とされますように」と祈ることができるのです。

この祈りは、神さまがご自分の聖なる名のゆえに、わたしたちを赦し、救ってくださることを、願い求める祈りです。

そして、神さまは、事実そのようにして下さるお方であるからこそ、わたしたちは、神さまのその聖いみ名を、心からあがめ、賛美することができるのです。

また、そうして神さまを心からあがめるからこそ。わたしたちは、自分の生活のすべてが。思うこと、語ること、なすことのすべてが、神さまの聖いみ名を汚すことのないようにと、願うようになります。

そしてむしろ、わたしたちが、救いの恵みを喜び、活き活きと生かされ、また心から神さまにより頼んでいる姿を通して、そのようにわたしたちを生かし、支えて下さっている神さまがほめたたえられる。そんな、わたしたちの歩みとなるように、祈り求める者とされていくのです。

「天におられるわたしたちの父よ、み名が聖とされますように」。

【お祈り】

天におられる、わたしたちの父なる神よ、あなたのみ名が、聖とされますように。

すべての人が、あなたの救いに与り、すべての人が、あなたの聖なるみ名を呼ぶ者とされますように。

あなたの聖なる名のために、あなたが、わたしたちの罪を、イエスさまにあって、日々赦して下さいますように。

そして、わたしたちの歩みを、あなたのみ名がほめたたえられるような歩みへと導き、わたしたちが、あなたのみ名を、いよいよあがめ、いよいよ賛美し、いよいよ喜ぶものとなることが出来ますように。

このお祈りを、イエスさまの御名によって祈ります。アーメン

【讚美歌】 492 「み神をたたえる心こそは」

【信仰告白】 ニカイア信条

【十戒】

【献金】 65-1 「今そなえる」

【主の祈り】

【祈祷】天の父なる神さま、聖なるみ名を持つあなたが、わたしたちの父なる神でいてくださること。イエスさまを遣わして、わたしたちの罪を赦し、聖霊を与えて、あなたとの親しい愛の交わりの中に生きる命を与えてくださいますことを、心から感謝いたします。どうか、御言葉を通して示された恵みを覚え、あなたのみ名をあがめつつ、罪を悔い改めつつ、日々、あなたの御心に従って生きる歩みを備えて下さいますように。

今日ここに集うことのできなかつた、愛する兄弟姉妹を覚えます。どうか聖霊なる神さまが御言葉を届けて下さり、それぞれの場にありましても、イエスさまが共にいて下さる平安を与え、この礼拝の祝福と恵みに、共に与ることが出来るようにしてください。お一人お一人の信仰の歩みを、どうか導いてください。

また、わたしたちの中で、病や老いによって、体の弱さや痛みを覚えている者を、癒し、慰めて下さい。心の悩みや困難を抱えている者に、導きと支えをお与えください。

わたしたちが、イエスさまに結ばれた一つの体として、喜びも、労苦も分かち合い、祈り合いつつ、心をつ一つにして、信仰の歩みをなしていくことが出来ますように。

また、この礼拝に、新しく招かれている方たちを覚えます。どうか、御言葉を通して、まことの神であるあなたを知ることが出来ますように。イエスさまの救いの御業を、自分の救いの恵みとして、受け入れることが出来ますように。聖霊なる神さまが、まことの信仰へと導いて下さいますように、心から祈り願います。

神さま、寒い日が続いていますが、特に能登半島地震の被災地の方々を覚えます。日々の暮らしを奪われ、愛する者を失い、寒さと不便さの中で、傷つき、弱られていることと思います。どうか、あなたの慰めと、癒しをお与えください。そして、必要な助けが十分に届けられますように。また、支援する方たちの健康や安全も、お守りください。そして、一日も早く、安心できる生活が与えられますように。また、その地にある教会を覚えます。このような苦難の時にこそ、主が共にいて下さり、重荷を負ってくださることを覚えます。どうか、御言葉によって、兄弟姉妹の心を支え、慰めてください。あなたを礼拝する群れが、神さまの平安と希望に支えられ、生かされていきますように。わたしたちもまた、覚えて祈り続けることが出来ますように。

また、世界では戦争が続いています。一日も早く、争いが終わりますように。傷つき、苦しみ、嘆いている人々を、どうか助け、お守りください。また、同じ世界に生きているわたしたちが、執り成し祈るもの、また平和を造るものとして、遣わされていることを覚えて、あなたに示されたことを、小さくても行っていくことが出来ますように、お導き下さい。

そのためにも、この地上に立てられたすべてのキリストの体なる教会が、わたしたちが、イエスさまの福音を、あなたの御心を、人々に正しく、力強く告げ知らせ、また、愛を証しする群れとして、歩んでいくことが出来ますように。

このお祈りを、主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン

【讚美歌】 28 「み栄あれや」

【祝福】主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らしあなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けてあなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、

あなたがた一同と共にあるように。アーメン